

しちどうがらんあといせき

七堂伽藍跡遺跡

(茅ヶ崎市No.34遺跡)

調査期間 20081116～20090131

所在地 茅ヶ崎市下寺尾

時代

縄文
弥生
古墳
奈良・平安
中世
近世



作成日:20090609

概要

神奈川県藤沢土木事務所が計画・推進している、小出川河川改修事業に伴う発掘調査です。

発掘調査は平成13年度から着手し、これまでに約10,000㎡近くの調査を行いました。今年度で一連の事業は完了となります。

遺跡は古代高座郡家(こだいこうざぐうけ)(西方A遺跡)と下寺尾廃寺(しもてらおはいじ)の西側に隣接する場所に相当し、今年度は平成14・15・17・18年度に発掘調査した範囲に囲まれた約450㎡を対象に調査を行いました。その結果、古代の竪穴住居2軒、河道(かどう)跡1条、ピット・土坑の他、中世・近世の溝・道状遺構、縄文時代の遺物などが発見されました。このうち古代の河道は平成17・18年度に検出した続きの部分进行调查しましたが、覆土中からは多量の土器が出土し、さらに河道の底からは皇朝十二銭(こうちょうじゅうにせん)の一つ「隆平永寶(りゅうへいえいほう)」(初鑄年 延暦15(796)年)が発見され、平安時代の河であることが判りました。

この他に注目される遺物としては、土師器の小型甕の表面に人の顔を墨で描いた「墨書人面土器(ぼくしょじんめんどき)」が2点確認されました。神奈川県内では9例目の事例となる模様です。こうした墨書人面土器は、川辺でお祓(はら)



▲古代の河道



▲皇朝十二銭(隆平永寶)

いなどの祭祀に関係して使用されたものと思われます。

調査地点は、小出川左岸の砂州(さす)微高地が西側に張り出した突端部に位置しますが、この河道は砂州を抉(えぐ)るように東に蛇行するなど、不自然な流路を形成していることから人為的に開削された可能性も考えられ、その背景には隣接する寺院・官衙(かんが)への物資運搬のための「津」のような役割があったのかも知れません。



▲墨書人面土器